

# Concert Reviews

## 鍵盤

### ●ソフィー・マユコ・フェッターP

父がシュトックハウゼンの演奏などで知られるミヒャエル・フェッター。昨シーズンはザルツブルク音楽祭に出演し、ウィーン放送交響楽団とともにソリストとして彼女のために作曲された「ピアノ協奏曲」を初演している。前半は、アンリ・プースール《夢の花びら》、ベートーヴェン「ピアノ・ソナタ第30番」、後半が、クラウス・シュテファン・マンコップ《プロスペロ・フラグメンテ》、サン・サーンス「左手のための6つの練習曲」、バッハ（フゾーニ編）《シャコンヌ》。

プースール、マンコップの作品への鋭敏な洞察力は彼女の知的個性を表白し、現代音楽へ深く傾注した彼女の音楽は演奏も独創性に富んでいた。多弁で自在な表現力によるベートーヴェン、フゾーニの世界から飛翔するロマン的バッハ、その抑揚感やスタイルは超然としていた。

《夢の花びら》ではプースールの俳句を彼女が仏語、独語、日本語により翻訳朗読し、母が日本人という彼女らしいマルチリンガルの才も披露、美麗な立ち振る舞いを備え才色兼備のピアニストといえる。(10月27日・東京オペラシティ・リサイタルホール)